

# アスター (エゾギク)

日本では仏花としてお盆やお彼岸で利用されるが、アレンジメントアスターの普及により、ブーケやアレンジ等にも利用されるようになっている。

学名 *Callistephus chinensis* キク科  
和名 蝦夷菊 (エゾギク)  
原産地 中国東北部

特性・・・日長に敏感で、連作を極端に嫌う性質をもつ。  
開花特性・・・相対的長短日植物  
開花期・・・季咲きで7月～9月  
栽培環境・・・生育適温は20～25℃で、過湿土壌は避ける。

1 坪あたりの植付け本数・・・1 本仕立 約 110～130 本/坪  
ピンチ栽培 約 35～50 本/坪

1 株あたりの採花本数・・・仕立てにより1～8本  
価格・・・品種により異なるためカタログ参照



## 播種

播種時期・・・3～4 月  
発芽条件・・・好光性  
発芽適温・・・15～20℃  
発芽日数・・・約 7 日

## 定植

定植時期・・・4～5 月  
定植間隔・・・1 本切り栽培  
株間 12～15cm 条間 12～15cm  
の 6～8 条植え  
ピンチ栽培  
株間 20～30cm 条間 20～30cm  
の 2～4 条植え  
畝・・・定植状況に準じる  
ネット・・・定植間隔により 12～20cm 角を 1  
～2 段  
マルチ・・・

## 肥料

元肥・・・N-P-K=各 1.0～1.5kg/a  
(1 本切り栽培の場合は少なめに設定する)  
pH・・・6.0～7.0  
追肥・・・N-P-K= - - kg/a

## 作型

- ◆季咲き栽培・・・3～4 月播種、4～5 月定植、7～8 月出荷
- ◆促成栽培・・・8～11 月播種、9～1 月定植、12～4 月出荷。定植後約 1 ヶ月間電照、加温 15℃。
- ◆半促成栽培・・・12～2 月播種、1～3 月定植、5～7 月出荷。定植後約 1 ヶ月間電照。加温 15℃。
- ◆抑制栽培・・・5～7 月播種、6～9 月定植、9～12 月出荷。定植直後から電照開始。草丈が確保できた場合は電照を打ち切る。加温 15℃。

## 病虫害

オンシツコナジラミ、アザミウマ類、アブラムシ、ハモグリバエ、ヨトウムシ、ダニ類など  
特にミカンキイロアザミウマは TSWV (トマト黄化壊疽ウィルス) を媒介するので注意。

立枯病、灰色カビ病、斑点病、赤さび病、うどんこ病、萎凋病など。  
特にフザリウム菌による立枯れ生育後期に多発し、発生してからでは手遅れとなるため事前に土壌消毒をしておくこと。

## 出荷

5～6 輪程度開花した時点を切り前とする。

## 管理

---

生育適温は 20~25℃

温度が 15℃以下の場合には奇形花が出るおそれがある。

過湿には弱く根腐れを起こすことがあるため、土壌によっては高畝とする。

※ 好光性種子なので、播種後の覆土はごく薄く行うこと。覆土をしないと根が地中に入りにくく、覆土が厚いと発芽しにくくなる。

※ 播種後、すぐに灌水をすると種子が溺れて発芽率が低下する可能性が高い。播種前にたっぷり灌水し、播種後は発芽まで水を控えるか、様子を見ながら灌水する。少なくとも、播種後 1 日は灌水しないこと。

ピンチ栽培の場合、定植後約 40 日で主茎が 15cm 程度伸長しているのを確認したら、株元より 5~10cm の位置でピンチを行う。ピンチ後 6~8 本程度を目安に芽整理する。

日長には非常に敏感で、長日条件で節間伸長を促進し、花芽分化後は短日条件で開花が促進される。

電照は深夜 3.5 時間の夜間中断か、日長が 16 時間程度になるよう日長延長を行う。

高温期は短小開花しやすいため、定植と同時に電照を開始して草丈伸長を促す。必要な草丈が確保できた場合は電照を打ち切って開花させる。

花芽分化後も電照を続けた場合、開花が遅れ、花径が大きくなる傾向にある。これを利用して開花期を後ろにずらすこともできるが、花径が大きくなるため切り花品質は低下する。

長日期にも電照することによって、株元からの余分な芽吹きを抑えることができる。目安は定植から 1 ヶ月程度。

生育初期は十分に灌水を行い、生育後期には徐々に灌水を控える。茎を硬く仕上げる他、立枯れの発生を抑制する効果もある。

pH が酸性に傾くと (4.3~5.8) フザリウム菌の活動が活発になるため、事前に pH6~7 に調整しておくこと。